



「手遅れ」を告げる時計の針は、 じりじりしている間にも、確実に進んでいます。

地

地球の温暖化が止まりません。しかも気温の上がり方がどんどん速くなっています。地球の平均気温は百年で0.74 高くなり、海面は17cm上昇。多くの氷河が大幅に後退し、大雨や洪水被害が世界各地で多発しています。日本は平均気温が百年間で約1 上がりました。筑豊地区では約0.9 の上昇。毎年各地で最高気温の記録が更新されています。

実はこうした温暖化による現象は、まだまだ先の事だと考えられていました。ところが近年、すでに影響が表れ、このままでは加速度的に悪化していくと予測されています。すでに危機的状况を迎えてしまった地球、本格的な温暖化の警鐘はすでにここまできています。

では、何の対策もとらずに二酸化炭素(CO₂)を排出する生活を続けていくと一体どうなるのでしょうか。国連の気候変動に関する政府間パネル「IPCC」は、「このままでは地球の気温は、今世紀末に最大6.4 上昇する」と予測しています。

地球の容量を越えたCO₂排出量

実際に1970年ころから大西洋と西太平洋における熱帯低気圧の破壊力が増強しています。温暖化が進むと、まず大気中の水蒸気が増加して大雨や台風が多発。洪水の頻度が増します。日本でも、1時間に50mmを超える強い雨」の回数が、過去30年でおよそ1.5倍に増えました。また、国内では東日本の日本海側で降る雪の量が1980年代後半から減少傾向に。暑さで空気が乾燥し、森が枯れたり、山火事が起きやすくなり、二酸化炭素を吸収する木が減ることで、温暖化はさらに加速します。

一方、食糧不足も深刻になります。最も身近なところではコメ。品質低下や高温障害が増えます。カメムシ被害が多発し、九州北部の水田では潜在的な水不足になることが予測されています。害虫であるウンカの発生地域が広がり、高温多湿な環境で多発する紋枯病も北上します。輸入に頼り、農作物の自給率が低い日本は、食糧確保の面で大きな影響を受けます。



この暑さ、ちよつとおかしいと思いませんか。昔とくらべてみなさんが肌で感じているように、温暖化で地球が悲鳴をあげています。次の世代で表れるといわれていた影響がすでに出てきているのです。気候と自然環境の変化は、もはや、現実のものとなつてしまいました。



Data courtesy Marc Imhoff of NASA GSFC and Christopher Elvidge of NOAA NGDC. Image by Craig Mayhew and Robert Simmon, NASA GSFC.

気温上昇で氷が溶け、海面水位が上がリ、水没する島が出てきます。湿地が姿を消し、砂漠化も加速。生態系が変わり絶滅生物も増えます。このまま北極の氷が溶け続けるとホッキョクグマの絶滅は避けられません。



昨年、町内の田は市場地区を中心に害虫「ウンカ」の著しい被害に遭いました。また稲の高温障害も少なくありません。温暖化が進めば、蚊などの増殖による人間の感染症や建物ではシロアリの被害も増加します。

Earth at Night 夜の地球

先進諸国や都市が光を放つ、衛星がとらえた夜の地球。産業革命以降、人間は石油や石炭などの化石燃料を燃やすことで二酸化炭素(CO₂)を大量に排出してきました。昔は植物や海がCO₂を吸収してバランスを保っていましたが、今は吸収しきれず、大気中のCO₂は蓄積され続けています。これだけ短時間で環境が急変したことは、地球史上かつてありませんでした。その「炭素循環」のバランスを壊してしまうほど出されたCO₂の多くは日本を含む先進国の排出によるものなのです。



温暖化のメカニズム

地球は太陽からのエネルギーで暖められ、地球からも熱が放射されています。大気に含まれる二酸化炭素(CO₂)などの温室効果ガスは、この熱の一部を吸収し、再び地表に戻しています。これを「再放射」といいます。そのおかげで地球の平均気温は約15 に保たれ、人間をはじめ生物が生きるのに適した環境が維持されているのです。本来、地球を「温室」のように温かく保ってくれる「温室効果ガス」は無くしてはならないもの。しかし、今は大気中にCO₂が蓄積しすぎて熱がこもり、気温がどんどん上がり続けています。

